

科目名	パブリック・リレーションズ B (1クラス)
担当者	井之上 喬
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	<p>パブリック・リレーションズ (PR) とは、個人や組織体が最短距離で目標や目的を達成する手法で、本コースは、従来型の広報とは異なる幅広い、奥行きが深い、パブリック・リレーションズの実践を習得し、理論、知識、実践 (技術) 力に加えそのスピリットを修得する。</p> <p>この授業では、春学期に受講した「パブリック・リレーションズ A」における理論主体の学習から、より実践的なプログラムによる学習を行なう。平行して理論検証を行うことにより実践と理論を統合的に学ぶ。具体的には、業種の異なる組織体が実施している広報プログラムをケース・スタディとして、事例紹介とディスカッションを通して学習。また第一線のジャーナリストを招いて、メディアの視点から話を聞く。</p> <p>本講義 (PR-B : 実践編) では、グループに分け、与えられた課題からテーマを選び、具体的な戦略プランを立てシミュレーションを行なう。各グループによるプレゼンテーションを通して直面する課題や疑問などを摘出。全員でディスカッションしパブリック・リレーションズの理論を実践的に習得する。なお、本コースを取る前に、春学期のPR-Aの履修が望ましい。</p>
授業の到達目標	<p>①「パブリック・リレーションズ A」で学んだ理論を、具体的な事例を通して実践的に学習し、理論と実践の統合性が把握できるようになる。</p> <p>②ケース・スタディや報道分析を通して、社会で起こっている事象に「倫理」「双方向性」そして「自己修正能力」がいかに関係かを理解する。</p> <p>③ケース・スタディを通して、さまざまなリレーションズがどのように統合されているのかが体得できる。</p> <p>④状況の変化の読み取り方を学び、戦略性とスピードを伴ったリレーションシップ・マネジメントが如何に関係かを理解する。</p> <p>⑤ケース・スタディを通して、組織体にとってパブリック・リレーションズをどのように取り込めばいいのかが把握できるようになる。</p>

授業計画	(1) パブリック・リレーションズのプログラミングの学習（ライフサイクル・モデルより） (2) メディア・リレーションズ1：外部ジャーナリストによる「メディアの視点でみる組織体」 (3) メディア・リレーションズ2：プレス・キットの構成&概要/プレス・リリースの書き方 (4) メディア・リレーションズ3：模擬記者会見による (5) ケース・スタディ1：インベスター・リレーションズ (6) ケース・スタディ2：エンプロイヤー・リレーションズ (7) ケース・スタディ3：コミュニティ・リレーションズ/インダストリー&アソシエーション・リレーションズ (8) ケース・スタディ4：ガバメント・リレーションズ （プロジェクト：首相官邸 or 内閣府などの政府機関訪問） (9) ケース・スタディ5：CSR(企業の社会的責任) (10) ケース・スタディ6：インフルエンサー・リレーションズ (11) シミュレーション：ライフサイクル・モデルをつかった企画書作成 (12) 環境問題 (13) 企画ドラフトの最終チェック (14) 企画のプレゼンテーション&ディスカッション (15) まとめとこれからのパブリック・リレーションズ											
教科書	井之上喬 著『パブリック・リレーションズ』日本評論社（2006年）											
参考文献	井之上喬（2009）.『「説明責任」とは何か』. 東京：PHP研究所 講義の中で適宜推薦 配布資料：講義のトピックスに応じて、クラスの中で適宜配布（論文、新聞・雑誌クリッピングなど） 井之上ブログ http://inoueblog.com											
成績評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="416 1339 703 1391">割合</th> <th data-bbox="703 1339 1359 1391">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="416 1391 703 1489">平常点評価 30%</td> <td data-bbox="703 1391 1359 1489">授業への参加度および発言の積極性など 感想レポート（A4:1000字程度）一回提出</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 1489 703 1590">プランニングと発表 50%</td> <td data-bbox="703 1489 1359 1590">それぞれのテーマを選び企画立案する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 1590 703 1691">出席状況 20%</td> <td data-bbox="703 1590 1359 1691">欠席は4回まで（他に理由があるときには事前に申し出る）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 1691 703 1776">その他</td> <td data-bbox="703 1691 1359 1776">なお評価方法と基準は絶対的評価法を採用します</td> </tr> </tbody> </table>	割合	評価基準	平常点評価 30%	授業への参加度および発言の積極性など 感想レポート（A4:1000字程度）一回提出	プランニングと発表 50%	それぞれのテーマを選び企画立案する	出席状況 20%	欠席は4回まで（他に理由があるときには事前に申し出る）	その他	なお評価方法と基準は絶対的評価法を採用します	
割合	評価基準											
平常点評価 30%	授業への参加度および発言の積極性など 感想レポート（A4:1000字程度）一回提出											
プランニングと発表 50%	それぞれのテーマを選び企画立案する											
出席状況 20%	欠席は4回まで（他に理由があるときには事前に申し出る）											
その他	なお評価方法と基準は絶対的評価法を採用します											
関連 URL	http://inoueblog.com											
備考	発表とディスカッション中心の講義を進めます。活発な意見の交換を期待しています。											